

談話室

教育実習を参観して

兵庫県立大学大学院工学研究科
准教授： 土田紀之

兵庫県立大学工学部応用物質科学科では、中学校教諭第一種(理科)および高等学校教諭第一種(理科・工業)の教員免許状を取得することが可能であり、1学年約100名のうち毎年10名前後の学生が教員免許取得を目指し、5月から6月の約3週間、教育実習に出かけている。教員免許を取るためには、学科以外の授業も受講する必要がある、その点学生にとって苦勞も多いと思われる。それでも、教員免許取得を目指す学生が毎年ある一定数いるということは、教員免許取得が学生にとって魅力的であることの表れではないかと思われる。また指導する教員としては、温かく見守ることに加えて、教育実習先に挨拶に伺うことが、大学から推奨されるようになった(教育学部の場合このようなことは多いようだが、工学部では珍しいことかもしれない)。

今年度卒業研究を指導している学生が、中学校の理科の先生になるべく、5月末から地元の中学校に教育実習に出かけた。実習先の中学校に伺わせてもらう日程を調整してもらったところ、教育実習期間に行われる「研究授業」に合わせ、訪問できることになった。

中学校へ訪問は、自身の卒業以来約四半世紀ぶりということもあり緊張しつつ、当日は昼過ぎに中学校に到着した。生徒と教師は学年、クラスにかかわらず全員同じランチルームで給食を食べており、その間、校長先生や指導していただいている先生方とお話しさせてもらった。理科の免許を取るなら数学の免許も持っていた方がよい、さらには小学校教諭の免許も必要など中学校の教員として求められることを教えていただいた。

当日の授業は3年生の「酸性とアルカリ性」についてであり、色の变化から酸性・アルカリ性を示す水溶液を調べ、さらに水溶液にマグネシウムリボンを入れ、気体の性質を調べる(水素が発生し火を近づけると音が鳴る)というものであった。指導していただいている理科の先生の話では、この授業内容の一部を教育実習生は中学時代には教わっていないのだという。数年ごとにカリキュラムが変わることやゆとり教育は、こういった点にも影響している。今回研究授業ということで、数名の先生が授業を見学されており、いつもとは違う雰囲気のため、実習生も生徒たちもはじめは緊張していた

様子であったが、授業が始まり10分もすると実習生もすっかり先生らしい顔つきになり、生徒への説明も大変しっかりとしていた。

実習期間中は普通の大学生活とは違い、朝早くから夜まで授業の準備(学習指導案の作成、実験で使用する薬品等の準備、説明内容の確認、板書など)と授業後の反省会を踏まえた軌道修正、部活動の指導など、やることは山ほどあったと聞いた。実習生の授業後に行われる反省会は、私が伺ったときも行われ、理科担当の先生方より授業の進め方、実験をスムーズにかつ成功させるためのポイント等細かい点まで指導があった。反省会は実習生の授業後に毎回行っていると聞き、非常に丁寧に時間をかけて実習生を指導していただいていた先生方の凄さ、教育の大変さと重要性を実感することができた。また、このような環境下で授業を通じてしっかりと結果を示しつつあった実習生にも「先生になりたい」という本気度を感じることができ、その日の授業後は校長先生はじめ他の先生方から授業の進め方や授業中の表情の豊かさなどを褒められていた。卒業研究、部活動、アルバイトなどを掛け持ちしている大学生活とは違い、ひとつのことに集中して専念できたことも大きかったのではないかと思う。中学校の雰囲気と、普段はなかなか見られない表情で教育実習に取り組んでいた学生を見て、今後卒業研究の指導を通じて自分が何を学生たちに伝えられるかという点は、自分自身の課題だと感じた。

中学校と大学では「教育」という点で繋がっているとはいえ、今回の機会を通じて、授業に加え道徳、生活習慣などを生徒との共同生活を通じて教え込んでいる中学校は、やはり大学とは異なるものだと感じ、中学校の先生の大変さを知ることができた。また、実習先での学生を見て、将来の夢をしっかりと定め、それに向かって突き進む時に、若さは非常に大きな武器となるということも改めて認識できた。大学でも大学教員の教育能力を高めるための実践的方法(Faculty Development; FD)などを通じて授業の重要性が叫ばれている。筆者自身、大学で初めて授業を担当したときの授業評価アンケートで「あなたは教員には向いていません」とはっきり書かれてしまった非常に苦い経験があり、恥ずかしながら教育については、まだまだ未熟な点が多い。反省会で校長先生が実習生に対して述べられた「いつ何時でも授業を大切に下さい、生徒の立場になって良い授業を心がけて下さい」というアドバイスは、そのまま自分自身にも当てはまる言葉であり、そのときは、自分も一瞬実習生と同じ気持ちになって話を聞いていた。今回教育実習を参観させてもらったことは、自分自身にとって非常に興味深い、良い経験となった。

(2012年6月29日受理)

(連絡先：〒671-2280 姫路市書写2167)